

旭

印刷を支え加工を活かす

物流部門
はやしひろふみ
林 宏郁

長年ドライバーとして経験を積んできた林さん。当社での13年間を振り返り、入社当時の心境や乗り越えた苦勞を語ってもらいました。コミュニケーション能力の高さを備え、物流の最前線で働く林さんが常に守り続けるモットーとは？



まずは、入社の際を教えてください。

前職もドライバーをしていました。ところが、長期休暇明けに出社すると門には鍵がかけられており、そこにある張り紙から倒産が発覚。ほとんどの従業員が知りませんでした。私には4人の子どもがおり、当時は一番上の子が中学生。予期せぬ事態に目の前が真っ暗になりました。しかし、悲観していても何も変わりません。就職活動をしているなかで、当社の求人を見つけました。早速面接に行きましたが、不採用の連絡が……。気を取り直して活動が続いていたところ、また当社の求人が出ていくことに気づきました。勇気を出して再度連絡。2回目の面接をお願いすることになり、晴れて入社が決まりました。あれから13年、あのとき諦めずに本当によかったと思っています。

現在の仕事内容は、どのようなものですか。

荷物をフォークリフトでトラックに積み込み、取引先に配達しています。また印刷後の紙を引き取ることもあります。1日の訪問先は平均5〜6軒。取引先企業や倉庫などです。私は10tの大型トラックを担当しています。そのため、荷物量が多いところがメインです。

では、これまで苦労した経験はありますか。

入社当初はプラッターリフトの操縦に苦労しました。慣れるまでに半年ほどかかったでしょうか。これまで着座してハンドルを操作するカウンタースティックリフトは何度も経験がありました。しかし、プラッターリフトは初めて。ツメが上下に動かせることから、レバーの数が多いのが特徴です。

同時に3つのレバーを操作することもあり、手だけでは足りません。その場合は肘を使うことも。初めは空のパレットを使って何度も練習しました。

仕事をする際のモットーを教えてください。

常に安全運転を意識しています。当社が取り扱っている商品は紙です。荷崩れが起きると再度検品作業をしなければならず、場合によっては納品できなくなる可能性もあります。輸送の際には細心の注意が必要です。大切なのは、極力ブレーキを踏まないこと。そのために、車間距離を十分に確保し、なるべく高速道路を使っています。一般道では、自転車や人の飛び出しにも気をつけなければなりません。毎日約100km走行しており、周囲の状況確認には神経を使っています。

やりがいを感じる瞬間は、どのようなときですか。

取引先で色々な方と話をすることが楽しいと感じています。私は人と関わることが好きなため、コミュニケーションも積極的なのかもしれません。仲良くなった方とプライベートで釣りやお酒を飲みに行くこともあります。新しい出会いは世界と広げるきっかけにもなるため、それが仕事のやりがいにもつながっています。

今後の目標をお願いします。

50代になり、体力の衰えを感じる事が多くなりました。特に大型車両の運転は、安全への強い意識が必要で。気を張り詰めていると、疲れも感じやすくなります。とはいえ、まだまだ現役です。60歳までは大型車を運転したいと思っています。そのために、自宅では足腰を鍛えるト



企業情報

- ◆創 立 年：1983年1月
- ※創業：1963年
- ◆年 商：17.6億円
- ◆従業員数：200人

※2023年12月実績

幹部たちの ビジョンとパッション

第4弾

本部長として2工場を統括する大橋さん。

クリーンルームの新設で、より幅広いニーズに応えられる体制ができたことに自信を持ちつつ、人材育成の面ではクリアすべき課題を抱えているそうです。ご自身で実践している、大橋さんが考える組織への貢献とは？

旭紙工の強み

ワンストップ体制で 無駄のない サービスを提供

当社の最大の強みは、印刷物の加工から納品までワンストップでできることです。製本後の内職作業も含め、すべての工程を社内で行っているため、加工中の商品を移動させる手間やコストも省けます。お客様にとっては、依頼先を1社に集約できるため、何かあったときも確認を取りやすい上、コスト・スピード両面で無駄のないサービスを受けることができます。

クリーンルームでは デリケートな 商品の梱包も可能

2023年に、嚴重な防塵・防虫・遮光対策を施したクリーンルームが完成。専用のクリーンウェア・帽子・手袋・マスクを着用したスタッフが、医薬部外品や化粧品といったデリケートな商品の梱包・検品作業などを行っています。従来の、「外箱の制作だけ」「同梱する説明書の印刷だけ」という部分的な受注ではなく、パッケージング作業も含めた包括的なサービスを実現できたのです。もちろんそこには、今まで培ってきた製本のノウハウが活かされています。現在は、お中元・お歳暮といった詰め合わせギフト商品のセット作業の売り込みにも力を入れています。

大ロット・短納期に 対応可能！ 24時間稼働の工場と 優秀なオペレーター

業界では珍しく24時間体制で工場を稼働しているため、大ロット・短納期の受注に応えることができます。他社以上に人手を要しますが、その分地域の雇用を生むという効果もあります。この体制を支えているのは、優秀なオペレーターたちです。満足度の高い製品を届けるために、チームをまとめ品質を守り続けてくれています。「残業してでもお客様の期待に応える」という熱意も素晴らしいと思います。

エアシャワー部



内部



身だしなみ部



大橋さんの 考えとは？

工場本部 本部長
おおはし たか ゆき
大橋 隆行さん



長期的に成し遂げたいこと

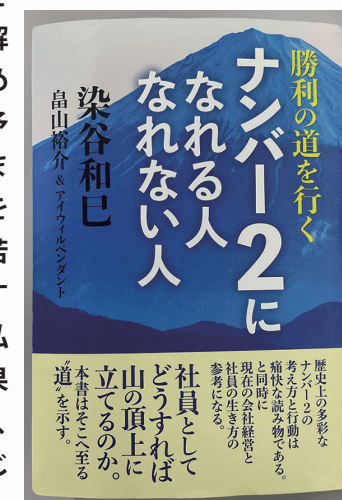
10年以内に オペレーターの人数を 倍の50名に増員

2024年5月現在25名ほどの機械オペレーターの人数を、倍の50名に増員することが目標です。その背景には、事業拡大という観点以外にも、「1人でも多くの従業員に、当社のものづくりに直接携わる喜びを実感してほしい」という個人的な思いがあります。オペレーターの仕事は、折り方や完成品の厚さなど日々異なる商品を形作る、やりがいのある仕事だからです。ただ、例えば無線縫製であれば、一人前になるまでに3年ほどかかります。そのため、5年、10年といった長期的な視点で臨まなければなりません。もちろん外国から迎えた研修生の皆さんに対しても、キャリアを積んで長期的に旭紙工を支えてほしいと期待しています。すでに、タイ人の元研修生が社員としてオペレーター業務を習得中。彼をロールモデルとした人材育成に努めたいと思います。

大切にしている考え方・信念

お客様の期待に 応えるための挑戦、 マインドを継承する使命

もともと負けず嫌いな性格なので、仕事でも常に「他社にできることは当社にもできる」という思考で臨んでいます。そのため、お客様から「こういうこともできますか？」と訊かれたときは、未経験のことでも一度はチャレンジ。できるかぎりご要望に応える努力をするのがモットーです。社員に対しては、意思の統一ができるような働きかけを心掛けています。2023年の年明け以降は、月に2回ペースで、工場長を含む部門長と、各部署の2番手社員を集めて読書会を開催。直近では、社長が講師を務める研修会社アイウィルの主催者・染谷氏の著書『勝利の道を行くナンバー2になれる人 ならない人』を持ち回りで朗読し、私が解説を加えるという形で進めています。解説のための予習には相当な労力を要しますが、これまで私が仕事を通して学んできたことを若手社員に伝えて活躍を促すことが、50代に突入した私の使命です。その役割を果たした先に、お客様や社長、従業員の笑顔があると信じています。



今後の意気込み

社長からの勧めで読んだ『「低成長優良企業」を目指す 経営幹部の思考と行動』という本に書かれていた、「ドカンと儲けることを狙うのではなく毎年少しずつ成長していくのが優良企業である」というマインドを大切にしたいと思います。当たり前のことを当たり前に継続できる組織づくりに努めます。